

天声人語

顕微鏡の歴史は古い。理科の授業でおなじみの顕微鏡の原型は16世紀末、オランダの眼鏡師ヤンセン親子が発明した。望遠鏡を逆からのぞいて偶然発見したという▼「私はもともと顕微

鏡が大好きで、何時間でも眺めていられます」。ノーベル医学生理学賞に輝いた東京工業大の栄誉教授大隅良典さん(71)の出発点はすべて顕微鏡観察だった。研究室に入る学生にも最初に顕微鏡を使わせる。「現象そのものを大切に。自分の目で確かめる。生物学の王道だからです」▼今回の授賞理由も研究室でひとり酵母を顕微鏡で見っていた時の成果である。たくさんの小さな粒がピチピチはねている。まるで踊るかのよう。夢中になって何時間も観察を続け、それがオートファジー(自食作用)現象そのものだと気づいた。43歳だった▼四人きょうだいの末弟として福岡市に生まれた。体は弱かったが昆虫採集には熱中した。東京の大学に進んだ兄が帰省のたび、1冊ずつ本を買ってきてくれた。宇宙、進化、遺伝子。高校で化学部を選んだ▼いまの大学の研究環境には懸念を隠さない。大学に余裕がなく、学生たちが口をそろえて「人に役立つ研究をしたい」と自らを追い立てる。「研究成果が数年単位で薬になるという短絡的な考え方はしないではない」▼東大の講師から助教授として独立した際も、愛用の顕微鏡といっしょだった。〈顕微鏡少年の夢らんらんと〉北野年子。まさに顕微鏡を愛し、顕微鏡に愛された研究生生活が実を結んだ。